

1 審議テーマと検討経過

情報化社会の進展により、青少年の間でも SNS などインターネット上でのコミュニケーションが増えるとともに、情報通信技術を積極的に活用していくことが求められている。一方で、青少年の中には、コミュニケーションが上手くとれず、不登校やひきこもりになることや、インターネット上の事件・事故に巻き込まれるということがある。青少年のコミュニケーションについて、現状を踏まえて捉え直し、青少年の育ちに必要な支援について調査審議を行うこととした。

<協議の視点>

- 1 青少年のコミュニケーションのあり方
- 2 困難を有する青少年への支援
- 3 情報ネットワーク社会への対応

2 現状

(1) 青少年のコミュニケーションのあり方

- ア 言語能力とコミュニケーション
- イ 日常のコミュニケーションを支える SNS
- ウ 子どもの自己形成
- エ 地域の状況

(2) 困難を有する青少年への支援

- ア 生きづらさを抱える青少年
- イ 困難を有する青少年とコミュニケーション
- ウ 安心して失敗できる場の不足
- エ 青少年が社会に出る準備の難しさ

(3) 情報ネットワーク社会への対応

- ア SNS 普及における弊害
- イ 情報技術の活用

3 議論の視点

(1) 青少年のコミュニケーションのあり方

- ア 社会構造の変化と青少年育成・支援
- イ これからの子どもの「育成」
- ウ 地域社会の中での青少年育成・支援
- エ 新たなコミュニケーションの可能性

(2) 困難を有する青少年への支援

- ア 安心できる人間関係の構築
- イ 自己肯定感の育み
- ウ 保護者へのアプローチ

(3) 情報ネットワーク社会への対応

- ア 情報ネットワーク社会における学び
- イ 価値創出におけるプロセス

4 議論の方向性～情報ネットワーク社会におけるコミュニケーションと育ちを考える

(1) 情報ネットワーク社会における若者の信頼関係と成長

- 信頼のあり方は多様化しているのか。成長につながる信頼関係とは何か。
- ・若者の中では、SNS 上の信頼関係を育むことを大事にしているのではないかと。大人が近所付き合いを丁寧に行っていることと同じ感覚なのではないか。
- ・お互いに分かり合うことが信頼だと考えられていたが、今の若者は、信頼の質や幅が違うのではないかと。そうした信頼が、成長につながるのか、あるいは成長につながる信頼にはどのような要素や、条件、環境が必要なのだろうか。
- ・若者にとって、情報技術によるコミュニケーションは、リアルな人間関係を維持する基盤になっていることから、大人が率先して情報技術を受け入れ、利用していくことが大切ではないか。

(2) 曖昧なコミュニケーションと人間関係

- 曖昧なコミュニケーションにより、人間関係も曖昧になっているのではないかと。
- ・若者が気持ちを言語化せずに、スタンプで表現する「曖昧なコミュニケーション」をしているのは、友達とつながっていたいけど、深めたくないということではないかと。
- ・若者は、対面においても、曖昧なまま気持ちは共有しているということで、白黒ははっきりさせないことが多いように感じる。
- ・ひきこもりなど、困難を有する若者は、白黒ははっきりさせるようなところがあり、「曖昧なコミュニケーション」が進む場に居づらくなることもあり、生きづらさを抱えることになるのではないかと。安心できる人間関係が必要ではないかと。
- ・SNS のグループでは気の合う人同士が、同質性の高いグループで曖昧なコミュニケーションを進めていく。
- ・曖昧なコミュニケーションによる人間関係を前提とする若者について、これまでとは異なるアプローチで青少年の育成を支えていくことを考える時期がきているのではないかと。

(3) 親子のコミュニケーション

- 親子のコミュニケーションも曖昧ではないかと。親子で地域にでる機会が必要ではないかと。
- ・家庭内にも「曖昧なコミュニケーション」があり、そのことが他とのコミュニケーションに影響しているのではないかと。子どもが育つプロセスの中で、親が先回りして子どもの気持ちを汲み取り、親が判断してしまうことが多くなっているのではないかと。
- ・子育てに意識が高い親は、過干渉、過保護になりがちな傾向があり、意識が低い親は子どもに無関心でネグレクトのような状況になるという二極化している状況があるのではないかと。
- ・子育てをしている親が、他の親子の関わりを見る機会が少ない。他の親子の関わりを身近に見ることは、とても学びになるのではないかと。
- ・「正しい親」だとみられたい親が、SNS でキラキラした親子関係を見る機会が多く、自分がなりたいたい親のイメージにアクセスしやすい。そうした状況により、今の親は苦しい思いをしているのではないかと。

5 今後の検討について

県では、「かながわ青少年育成・支援指針」の 2020 年度改定作業を予定しており、2019 年度の協議会による最終報告を踏まえ、施策の基本目標や施策の方向を検討することとしている。

2019 年度の協議会では、「中間とりまとめ」の方向性に基づき、これまでの議論を実践的な事業により検証するなど、県が取り組むべき青少年施策について議論を深め、最終報告をまとめる。